



宮司プレス 第百九十一号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和四年 九月二十日

◇宮司の柴田です。 九月は、別名 長月(ながつき)といいますが、なぜ、そのように呼ぶようになったのでしょうか。 実は、古来より、

「夜長月 (よながつき)」の略でありまして、

秋の夜長の頃という意味です。 「長月とは、

夜初めて長きをおぼゆるなり。 実に長きは冬

なれども、夏の短きに対して、長きを知るゆえ

なり」とのことから、そのように呼ばれるよう

になったそうです。 朝明けの時間が遅くなり

長い夜は、冬にちがいないけれども、夏にくら

べると長くなっているから、長月なのです。

過日の十日が、旧暦(きゆれき)の八月十五日、

「仲秋(ちゆうしゅう)の名月」でありまして、

「仲秋」なのです。 しかも、今月の二十三日

は、二至二分(にしにぶん)、秋の最中(もなか)の日であります。 にもかかわりませず、連日の、この日中の暑さは、何としたことでしょう。 天変地異(てんぺんちい)、気候変動により、旧暦や月の別名、年中行事によって、ようやく、「秋きぬ」と感じる昨今であります。

月(いねかりづき)の「い」と「り」が略され、「ネカツキ」↓「ナカツキ」↓「ナガツキ」

になったという説を唱(とな)えられました。

本居宣長(もとおり のりなが)さんは、「稲熟

月(いねあがりつき)」が、訛(なま)って、

ナガツキになったという説を説かれています。

◇江戸時代に、国学(こくがく)という、「復古

神道(ふつこしんとう)なる学問がおこる以前

は、仏教や、孔子(こうし)、孟子(もうし)に

代表される儒教(じゆきよう)の教えから、神

道というものが、説かれていました。 しかし

ながら、その復古神道は、「漢心(からころ)」

をすてて、悠久(ゆうきゆう)、とてつもなく永

い時間(こと)です)の、仏教伝来以前の日本人の心、「大和心(やまとこころ)」で、神道を説いた学問です。 荷田春満(かたのあずましろ)、前述(ぜんじゆつ)の賀茂真淵(かものまぶち)とおり のりなが)、さらに、平田篤胤(ひらたあつたね)が、最も有名ですが、これを、「国学の四大人(しだいじん、しうし)」と、その偉大(いだい)な功績(こうせき)が、称(たた)えられています。

◇余談(よだん)となりませんが、前述の荷田春満は、伏見稻荷神社の神主さんでした。 また、

忠臣蔵(ちゆうしんくら)四十七士の一人である大高健吾(おおたか けんご)や吉良氏の茶道の師、中島宗吾(なかしま そうご)と懇意(こんい)にしていて、吉良邸の絵図を大石内蔵助(おおいし くらすけ)に渡したそうです。

葉室麟(はむろ りん)さんの小説で読んだことがあります。 忠臣蔵にも一役(ひとやく)かっていたのです。

◇さて、その国学者のなかでも、塙保己一(はなわ ほきいち)という方がいらつしやいました。 七歳の時に失明されたのですが、十五歳の時に江戸に出て来られて、前述の賀茂真淵らに国学を学ばれました。 優れた記憶力(きおくりよく)で、六万冊の本をすべて暗記されていたそうです。 特に有名なものが、多くの古書

収集(ごしよしゅうしゅう)、や「群書類従(ぐんしよるいじゅう)」を編纂(へんさん)され、さらに、和学講談所(わがくこうだんしよ)をも建てられました。 塙保己一さんは、七歳にして、「盲目」という、最早(もはや)どうにも

ならない、変えようもない「さだめ」を背負(せお)ってしまったわけです。 しかしながら、目が見えないということが、もはや、不変(ふへん)の「さだめ」であるならば、耳で聞いて決して忘れないという道をすすまれて、大偉業

(だいいぎょう)を成し遂(と)げられたので
す。 明治時代の文豪(ぶんこう)である幸田
露伴(こうだ ろはん)さんは、「運命には、二
つある。 先天的(せんてんてき) 運命と後天
的(こうてんてき) 運命である。」と述べられて
います。 埴保己二さんは、「盲目」という先天
的運命をも、ものともせず、変わらざる運命を
静かに受け入れ、それと共に生きて、後天的運
命を、大偉業へと導きつつ歩まれたのです。
相田みつをさんの詩に、「雨の日には雨の中を
風の日には風の中を」というのがありますが、
雨の日も風の日にも、雨や風を正面から受け止
めて、生きていくことの大切さが説かれていま
す。 背負うべきものを背負う覚悟が決まった
時に、後天的運命は、滑らかに動き出すのかも
しれません。

◇長年、宇宙の摂理(せつり)を研究してこら
れた佐治晴夫(さじ はるお)博士は、「あなた
の『これから』が、あなたの『これまで』を決
める」と仰(おっしゃ)いました。 これまで、
どんな立派な実績を上げていても、これからが
お粗末だとその実績も色褪(あ)せてしまいま
すが、逆に、過去がどんなにみすばらしくても、
これから素晴らしい未来をひらいていけば、み
すばらしい過去も光り輝いてくるということ
でしょうか。 心静かに、謙虚に、自分の「さ
だめ」を見つめ直し、過去と現在を祓(はら)い清める、

「外清浄(げしじょうじょう)」が、先天的運命、
そして、希望を見失うことなく、前向きに、未
来を清める「内清浄(ないしじょうじょう)」が、
後天的運命になるのではないのでしょうか。 私
共、「これから」の歩みが大切です。 御自愛を
祈ります。

◇八月の祭典行事報告

▼月次祭 *八月一日、十五日



▼貴布禰神社月次祭 *八月一日

▼まほろば学級 *八月七日



▼花手水実施 *八月七日〜十三日



▼朝粥会 *八月二十一日

◇八月の宮司動静報告

▼彦島八幡宮関係団体

◆維蘇志会例会 *八月七日

◆敬神婦人会役員会 *八月十八日

◆秋季例祭企画室会議 *八月二

十八日

▼山口県神社庁関係

◆教化部事業説明に各支部へ出向

■長陽支部(宇部市) *八月三日

■周東支部(柳井市) *八月五日

■大美支部(長門市) *八月二十五日

■豊浦支部(下関市豊北町)

*八月二十日

◆下関支部幹事会

*八月四日

◆下関支部総会

*八月二十九日